

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度第4回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和2年2月28日（金曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 6階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、桃生鎮雄委員、 宮下あさみ委員、渡辺美子委員、赤川美穂委員、成田涼委員、 田邊香織委員、井口明彦委員、河内沙苗委員、山岸麻美委員 (アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 政策企画課：林係長 学校教育課：斎藤係長 子ども家庭課：田中課長、五十嵐課長補佐、大矢係長、 鷲頭係長、小林主査、金子子どもナビゲーター、 平沢子どもナビゲーター 子ども家庭センター：若井係長 保育課：高杉係長、小野塚係長、目黒係長 青少年育成課：菊地課長補佐</p>
5 欠席者名	池田浩委員、櫻井真理委員、若槻司委員、加藤仁委員、 長谷川恭平委員、榎園早苗委員、高橋美幸委員、横澤勝之委員、 早川明日香委員
6 議題	<p>(1) 第2期あいプランの計画案に係るパブリックコメント結果及び子ども・子育て会議委員からの意見について</p> <p>(2) 令和2年度教育・保育施設の利用定員について</p> <p>(3) 保幼小連携ワーキング部会の報告</p> <p>(4) 令和2年度子育て支援にかかる予算について</p>
7 その他	アドバイザーからのまとめ
8 会議結果の概要	<p>議事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり

9 会議内容

1. 開 会

2. あいさつ（事務局）

3. 議 事

- (1) 第2期あいプランの計画案に係るパブリックコメント結果及び子ども・子育て会議委員からの意見について

（事務局）

【資料No.1】「第2期あいプランへのパブリックコメントの内容と市の回答について」に基づき事務局が説明

【資料No.2】「第2期あいプランへの子ども・子育て会議委員からの意見等に対する回答」に基づき事務局が説明

（小池アドバイザー）

1点確認をさせていただきたいが、この計画案の第2部の方で施策の目標があるが、数値が入ってるところと文言で示されているところがある。数字のものはそれでいいが、この「維持」とあるものについてどういうふうに理解するかということ、ここで確認させていただければと思う。例えば、いただいているパブコメのところでは「維持」というのは、今の水準を維持するというふうに説明されているが、その理解でよいか。

今後、例えば子どもの数が減っていくとか、地域や社会の状況が変わっていった時に、参加人数や参加回数などで判断してしまうと、維持できてるのかどうかということがすごく見えにくくなってしまう可能性があるため、「維持」とあるものは、数字や回数や人数などで確認するのではなく、あくまで今長岡市で取り込まれている水準のものを維持するという理解でよろしいか。

（事務局）

今アドバイザーがおっしゃった通りで、御理解いただきたいと思う。

（委員長）

大まかにはこの素案の内容で決定として、修正後の最終案については、今事務局からお話があったように、私と事務局に一任していただきたいが、それも含めてこの内容について、ご承認いただけたら挙手をお願いしたい。

（委員）

※全員挙手

（委員長）

長岡市子ども・子育て会議条例施行規則第二条第4項の規定により、出席委員の過半数をもって決定となっているため、この議事については承認された。

- (2) 令和2年度教育・保育施設の利用定員について

(事務局)

【資料No.3】「令和2年度長岡市教育・保育施設等の利用定員について」に基づき事務局が説明

(委員)

小規模保育園については、この表のどこに入っているのか教えていただきたい。

(事務局)

小規模保育園については、表の一番下にある「地域型保育事業」というところに入っている。

(3) 保幼小ワーキング部会の報告

(事務局)

【資料No.4】「長岡市の保幼小連携の考え方」に基づき事務局が説明

(委員)

今回は保育園や学校の先生が集まって検討されたということで、保護者の意見を取り入れていただきたいと前の会議でも申し上げたかと思うが、今後話し合いが進む中で、ぜひ保護者の意見も入れていただけると良いと思うので、よろしくお願ひしたい。

(4) 令和2年度子育て支援にかかる予算について

(事務局)

【資料No.5】「令和2年度子育て支援事業について」に基づき事務局が説明

(委員)

子ども・青少年相談センターの対象年齢は何歳までか。

(事務局)

小学生から20歳未満としている。

(委員)

法改正で成人年齢が変わる場合はどうなるか。

(事務局)

今現在青少年育成センターは20歳未満まで対象としているため、サービスを縮小することなく、20歳未満までは引き続き対象としていく。

(委員)

病後児保育の新設のところで、これが令和2年度の計画で、先ほど口頭の説明の中で令和3年度には、というような説明だったが、実際にできるのはいつなのかを確認させてほしい。

(事務局)

現在の黒条保育園が「くろじょうこども園」として、新しく私立の園として生まれ変わるが、令和2年度から工事が始まり、令和3年度の頭には概ねでき上がってくると思う。その建物が完成次第、そこで病後児保育も開始するという予定になって

いるため、病後児保育の事業としては令和3年度からとなる。

4 その他

(委員長)

国連のSDGsとか、子どもの人権宣言30年というような節目の時に関わらせていただき、この施策の中にもたくさんそれが盛り込まれていることをとても実感し、すごいことに携わらせていただいたなという感謝の気持ちでいっぱいである。先日アオーレに行った際、四郎丸小学校の子どもたちの環境活動の資料があった中で、「CO2が増えているのでこれ以上増やさないしましょう。2,100年になったら、長岡の夏の温度は42度になりますよ」とあり、出かけるときに、近くだったら車は使わない、歯磨きするときは水を止めてやりましょう、というような、本当に身近なことが書いてあったが、子どもたちがそういうことを発信し、また、大人がたくさん集まるところにチラシを置いてくださったことがとてもうれしく感じ、各学校でもそういった活動はされていると思うが、そういう一つ一つの取組は大事であり、またそれを大事にしなくてはならないのかなということをととても感じた。社会のための子どもたちではなく、子どもたちのための社会だということを大事にしながら、自分なりに今後も前向きに進んできたいと感じている。

(委員)

私も今回、本当にいろいろなことを勉強させていただきありがたかった。また、あいプランの計画策定について関与できたことを本当に誇りに思う。今回、じっくり読ませていただき、妊娠から成人するまでの切れ目のない支援がきちんと盛り込まれており、改めて長岡市は大変いい子育て環境だなと思った。実際、本当に支援が必要な人にどう届けられるかというのが、今後の私の課題だと思っており、このあいプランは地域の中で本当に必要な人に届くための実効性のあるプランだと思っているので、また地域の中に帰って、本当に必要な人に届くように、どうしたらいいのかということを考えたいと思った。

(委員)

私は結構長く委員をやっており、前回の第1期のプランも策定に携わった。第2期のプランを通じて、前回に比べて社会の変化が非常に激しい中で、このプランも大分変わってきたと思っている。だんだんと子育て環境が整備されていっているにもかかわらず、なかなか少子化が回復しないことについて、非常に忸怩たる思いがしている。

あいプランの中で、「みんなで子育てするまち」とあり、子育ての喜びをシェアするとともに、その負担についても社会で平等に負担を持っていこうという中で、結婚や子育てについて前向きに、より若い人達に捉えていただき、ライフプランとしての子育てを積極的に捉えてもらえるように、私は私の立場の中でまた今後も努めていきたいと思っている。

(委員)

自分の子どもが小さい頃は、子育てのガイドブック等、いろいろ見せていただいたが、細かいところまでは目を通しておらず、自分の必要なところだけ見て活用させていただいていた。今回委員をさせていただいたことで、いろいろな分野のことを知ることができ、またいろいろなところに発信でき、自分のためにもなり、そして何か聞かれたときに回答できるようになったりして、とても勉強させていただいた。

(委員)

子どもが生まれてから育っていく中で、これほど細やかにいろいろな整備がされているということを改めて知ることができてよかったと思う。

私が子育てをしていた頃は30年ぐらい前で、今は孫の見守りをしている中でこんなに環境が変わってきたのかというのは実感しており、この中でもうたわれているように本当に目まぐるしく変わってきている。先ほど委員長がおっしゃったようにSDGsの感覚からすれば、ジェンダーのことも、こんなに本当に環境が変わってくるんだなということ、肌身に感じており、きめ細やかなプランを立てたとしても、来年はどうなっているかというような感覚だと思うので、これを作っただけではなく、これが本当に実践できてきたということ、みんなで見守っていかなければならないと感じた。これからも、そのような視点で行っていきたいと思っている。

(委員)

子ども・子育て会議に参加し、本当に長岡市ではいろいろな事業や支援があるんだなということを実感している。

実際私も20年近く前に小さい子どもを育てていたが、こんなことがあったのかなというくらい、すごくたくさんの事業が当市にあるということを知ることができ、私も今後何かの折にはそちらを活用していければと思う。

また、友人等からも、やはり長岡市を出ていってみると、長岡市の子育ての手厚いところや、細々とした事業があるということがとてもうらやましいというふうな話を聞いており、このようなプランがまた必要な方に必要な時期に届けていけるといいと感じた。

(委員)

私も最初のプランの作成の時から関わらせていただいて、最初から連携の大事さというのを一生懸命伝えてきたが、新しいあいプランを拝見すると、「連携」という言葉がすごく多く盛り込まれていると実感した。昨今の裁判のニュースとか、もう少し連携がきちんとしていたら助けられた命がたくさんあったのではないかということを目の当たりにすると、その連携の大切さと、可及的速やかに子どもの命を守るということ、それが大事なことではないかと思っている。

私どもも子どもの虐待防止という堅い言葉だが、防止に至らないように、楽しく子育てができるお手伝いが少しでもできればいいなと思い日々活動しているので、今後とも市の方たちと一緒に若いお父さんお母さん、それから、手を挙げてしまいそ

うになるような悩みの一手手前で助けて差し上げたいなという思いで、これからも活動していきたいと思う。

(委員)

子ども・子育て会議のすごいところは、本当に話し合った内容がきちんと施策に活かされ、実行されていくというのを見ることができ、本当に素晴らしい会議だなと感じたのがまず1点。その中で、本当にこの会議の中でもアドバイザーがおっしゃっていた子どもの権利条約を基本にということが大切なことだということを振り返る機会も与えていただいたのもとてもありがたかった。

委員としてやっていく中で、子どもの発達ガイドブックも、実際に作っていただき、本当にありがたかった。

私としては支援が必要な子どもが育てやすいところはどんな子でも育てやすいと思いつながら、いろいろなお子さんをみんなで一緒に育てていけるように、また今後も少しでもお手伝いできればと思っている。

(委員)

毎回貴重な資料をいただき、不慣れで専門性が違うところもあるが、資料に目を通すことによっていろいろなことを学ぶことができた。

子ども未来部の皆さんの関与するところは、子どもに関係することで、貧困であるとか、教育であるとか福祉であるとか、治安であるとか、いろいろなところに波及するところだと思うので、今後も財政状況が厳しく、人口が減少する中で、制約が出てくるかと思うが、市民の声や、この会議の声などをエビデンスにし、引き続きサービスが行き届くように、今後とも市政を牽引していただきたいと感じている。私自身は、これからまた一市民として、政策の便益や、サービスを活用させていただければと思う。

(委員)

子どもが育つ環境というのは、今まで自分が育ってきた中では親や先生や近所の人といった大人たちに関わってもらっていたという気持ちが大きかったが、直接的ではないが、子どもが育つためにこんなにたくさんの大人が関わっているということを知ることができたのがとてもよかったと思う。また、これから自分の子どもがもっと大きくなって小学生、中学生になっていく中で、たくさんのサービスが利用できるということを知ることができたのもっと利用していきたいと思いつ、また、自分が一緒に子育てをしているお母さんたちにも、どんどん伝えていけたらと思った。また、私は普通にご飯も食べられたし、学校に行きたいと言ったら行かせてもらえ、すごくいい環境の中で育って来られたということを感じたので、今まで知らなかったが、いろいろな環境下に置かれている子ども達がたくさんいるということもわかったので、自分がもう少し子育てに余裕ができてきたら、もっと周りの子どもたちにも目を配れるような存在になれたらいいなと思った。

子育てはやはり経験値と情報と、人に助けてと言ったり、助けを受け入れる力というのもすごく大事だなと思ったので、子どもにも、人に迷惑をかけるなどかでない

く、人に頼りながら生きていっていいんだよということを教えていきたいと思った。また、今後は自分が育ってきた中とは全然違う環境で育つ子どもに対し、母親としてしっかりとした目を向けながら一緒に育っていききたいと感じた。

(委員)

自分が子育て支援に携わるにあたり、こういった会議の中でお話を聞けることは、自分にとってすごく学びであり、自分はいつもそういう支援を受ける側の立場で子育てをさせてもらっており、今この新しいあいプランを見ると、自分が欲しかったもの、あればよかったと思うものが形になっていたりするのを見ると、これから先はお母さんたちが子どもを産んでよかったなと思ったり、今中学生や高校生のお子さん達も、いつか自分も親になっても長岡市で子育てしていきたいなと前向きに子育てのことをとらえていけるのではないかなとすごく感じた。子育ての駅で働いていても、お母さんたちの話を少し聞くぐらいしかできないということが実情ではあるが、普段、こんな話を聞きましたとか、こういうことをお話できてすごくよかったというのを聞くと、子育ての駅のスタッフとしてやってよかったと思うし、長岡市としてもこうやって、子育てに対して、いろいろなことしていただいているのですごく安心感がある。

(アドバイザーからのまとめ)

この第2期あいプランについて、皆さんから意見が54件も出ていたということで驚いた。それくらい皆さんがこのあいプランに関心を持ってくださり、本当に丁寧に目を通してくださったということを感じた。

皆さんのご意見を聞かせていただきながら、なるほどなと思い、私自身も学ばせていただくことがたくさんあった。これだけ多くの皆さんの目で確認をしながら作ったあいプランなので、本当にその内容について、形としてはいいものができたと思う。ただ、皆さんのご意見の中でもたくさん出ていたが、これを具体的にどう実現していくのかということと、せっかく作ったので、長岡市がこういうものを作っており、こういう内容が盛り込まれているということを、ぜひ皆さんからも広報してほしいと思う。せっかくこれだけの時間と皆さんの力を結集して作ってるわけなので、ぜひ広報の役割を、これから皆さんにはお願いしたいと思う。

一緒に目を通していただき、こういうことに取り組んでるんだということの一つ一つ確認をしていきながら、中身を実現し、良いものにしていただけるとありがたい。

このあいプランの中身と、ワーキング部会の報告も聞かせていただき、ぜひこの保幼小連携を進めていただきたいと思うのと、私は今の職場としては大学生を日頃見ているので、この成果はいつ出るのだろうと思っている。

就学前のお子さん達とその学童期に入ってお子さん達が、どんな形で学んでいったらどんな経験をしたらどんなことを見つけていくことが、私たちが日頃見ている大学生というところに、どういうふうに関係して繋がっていくのかなあというのを改

めて感じている。なかなか大学生も難しいところがあるので、そういう意味では皆さんの取り組みに期待したいところかなというふうに思っている。長い目で子供たちの育ちを見ていけたらなというふうに思いながら聞かせていただいた。

あいプランについてはおそらく細かい内容や文言の修正等が出てくるかと思うが、最後は事務局の皆さんにお願いしたいと思う。

2点目は、第2期あいプランがこの4月から動くことになると思うが、第1期計画も一生懸命作ったはずだが、子どもや子育てを取り巻く環境というのが、目まぐる変わっているのが現状かと思う。でもその中で、この5年間、長岡市が取り組んでこられたことがあるので、これは事務局の皆さんにもお願いしたいし、皆さんも市民としての感覚でお願いしたいが、今までこの5年間やってきたことが、どうプラスに働いているのか、或いはどこがまだ不十分なのかということの効果検証してほしい。ただ、社会や子育て環境がこれだけ変わっていけば100%はないと思っている。

最近思うが、これだけ子どもが少なくなっている時代の中で子育てをするという経験は、私たち誰もやってきていない。そういう中で子育てをしているということなので、どこかやはり手探りのところもあるだろうし、不十分なところもあるかと思う。でもその中で、できていることと、できていないことをきちんと見極めていくということはやはり大事になってくると思う。委員のみなさんがおっしゃっていたが、長岡市は子育てしやすいいろいろな施策に取り組んでおられるところなので、できていることもたくさんあるはずである。それはぜひ皆さん自信を持って肯定してほしい。ここができているんだということを自分たちでも打っていかないといけないと思うし、そこをきちんと見ながら検証できるといいと思っている。

3点目は、この計画に基づき、今後の長岡市の子ども・子育ての方向性を、皆さんと共有していけたらと思う。私もこの長岡市の「育つ喜び 育てる幸せ みんなで子育てするまち」としてフレーズがとても好きで、子どもたちが、自分たちが育っていく、大人になっていくってこんなことが楽しいんだとか、いいことなんだと思えたりとか、私自身子育てをしていてやっぱり子どもがいる生活の楽しさとか、日々の生活を楽しませてくれている子どもの存在や、こんなにたくさんの人に支えられ、こんなにたくさん大人の人が関わってくれているんだということに気が付き、キャッチフレーズを本当にいかに実現していくかというところかなと思う。

その中で、幾つか気になったことがあり、一つは、例えば「子ども・青少年相談センター」というのが新しく立ち上げられて、小学校からずっと切れ目なく支援相談の窓口を設定されるというのはすごく評価できることだが、その前のところと連続性を持って相談窓口を作っていくのか、長岡市全体で見たときに、子どもに関する相談窓口をどういうイメージで相談を受け付けていくような仕組みをつくるのが、結果として妊娠期から成人期までの切れ目のない相談体制っていうところにつなげていくことができるのかというのが私の中で少し見えにくかったかなというふうに思ったので、ぜひ見える形にさせていただけると良いと思った。

2点目は、パブリックコメントの中にも出ており、私も感じていたが、今回保育サービスも地域を分けて、それぞれのところで必要なニーズに合わせるようにしていきますというふうにされていたが、サービスの適正配置について、これは別に長岡市だけではなく、新潟県全体だと思うが、必要なところに必要なサービスを、そのサービスが持っている目的が果たせる形で、どう適正配置をしていくかということをやっていないと、いろいろなところでいろいろなニーズがあるというのは、対応をしていくのも大事だが、一方で、目的に合わないサービスを幾つも増やしても、利用する人たちの満足度は低くなってしまいうということも生じかねないので、これは、保育サービスであろうが子育て支援関係のいろいろな地域のサービスであろうが、やはり考えていかざるを得ないのかなというふうには感じている。これは多分、場合によっては大人や地域は痛みを伴うことが生じるが、その痛みを先ほど委員長もおっしゃったが、子どものための社会に変えていくために、大人や社会、地域が一定程度引き受けることができるかどうか、これはなかなか難しいことだと思うが、これが例えば5年10年でできるかどうかで、多分今後の方向性が変わってくるのではないかなというふうに思う。

3点目は、先ほど、委員がおっしゃっていたが、支援と必要な人をどうつなげていくかというところで、本当にいろいろなサービスが増えれば増えるほど、やはりそこをきちんとつないでいくというのが大事な課題になってくるというふうに感じている。

このあたりが、多分これからの5年間の中で、今皆さんのご意見を聞きながら感じていたところである。

5. 閉会

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

⑩

10. 会議資料 別添のとおり